

直売所運営のヒントに 農産物直売所食育マニュアルを作りました

企画経営部

県内各地に、地元の新鮮な農産物を販売する農産物直売所があり多くの方々に利用していただいています。県内12箇所の1,000名を超える直売所を訪れるお客様へのアンケート結果から、「健康な生活を送りたい」、「美味しい食事を作りたい」だけでなく「簡単なお料理を作りたい」など、様々なニーズがあることがわかりました(図1)。

さらに、野菜を使った料理を作る時に、「いつも同じような野菜を使ってしまう」、「料理方法がサラダか炒め物になりがち」、「味付けがワンパターンになってしまう」という悩みを抱えていることも、その後の調査でわかりました。

直売所でこの多様なお客様のニーズに応え、農産物の魅力を伝えていただくため、お客様に「作ってみたい」と思わせるレシピ作りのコツや、「野菜をたくさん摂る」「地域の食文化を伝える」イベント企画の提案(図2)を盛り込んだ「直売所の活性化と医食農連携農産物直売所食育マニュアル」(図3)を作成しました。

1 時短と商品 関心タイプ	2 食と健康マルチ 関心タイプ	3 料理関心 保守タイプ	4 食と健康 お任せタイプ
～特徴～ ・料理の手間はかけたくない ・新しい食品、健康にいいと言われる食材に関心あり ～ニーズ～ ・簡単な調理方法のレシピが欲しい ・料理の実演や試食をして欲しい	～特徴～ ・料理が好き、レパートリーも多い ・新しい食品、健康にいいと言われる食材に関心あり ～ニーズ～ ・あまり知られていない野菜・果物のレシピや料理方法を紹介して欲しい	～特徴～ ・料理が好き、レパートリーも多い ・新しい食品は積極的に購入しない ～ニーズ～ ・県内のJA直売所の紹介や特産品を販売して欲しい	～特徴～ ・食生活や健康に特に気にしていない ・新しい食品への関心は薄い ～ニーズ～ ・トマトやキュウリなどの食べ比べをして欲しい

図1 直売所利用者の食と健康の意識タイプとニーズ

地場農産物の利用拡大・顧客の拡大・ リピーターの確保のために

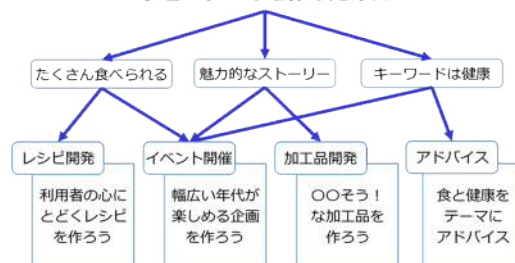


図2 直売所の顧客ニーズに基づく提案

お客様とのふれあいが直売所の強みです。多様なニーズを持つ、お客様へのサービスの向上、リピーターの確保などの直売所運営の資料としてぜひご活用ください。

なお、マニュアルは、農業技術センターHPからダウンロードできます。

【農業技術センター 食育マニュアル】で検索
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450110/shoku_manual.html

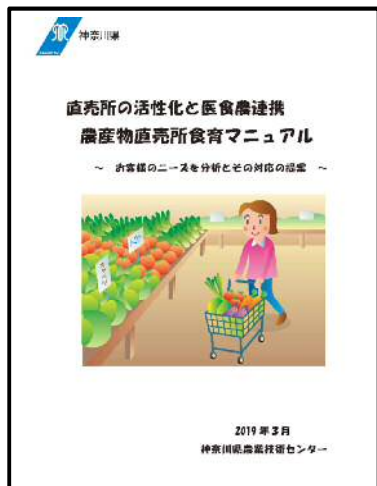


図3 マニュアルの表紙



私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。

SDGs 未来都市 神奈川県

年内どりダイコンの代替品目の導入普及

三浦半島地区事務所

三浦半島地区事務所では、平成28年度から管内農協等と連携し、年内どりダイコンの代替品目として、価格の年次変動が比較的少なく、収穫時の労力が軽いコカブ、レタス、ブロッコリー（図4）を選定し、導入定着させることで農家所得の向上と労力の軽減を図り、農家経営の安定化を推進しています。

年内どりダイコン栽培面積の1割程度の20haを代替品目に転換することを目標とし、実証展示ほの設置（図5）、新規導入者に対する徹底した巡回指導（図6）を主軸に、普及活動を展開しました。

平成30年度の実績で、転換面積は18.1ha（コカブ6.5ha、レタス5.9ha、ブロッコリー5.7ha）に達し、出荷価格も安定しており、農家経営の安定化に寄与することができました。また、平成31年度からは、本対策の主導的役割を普及から農協へ移行し、継続して推進しています。



図4 代替品目（上：コカブ、中：レタス、下：ブロッコリー）



図5 代替品目の実証展示



図6 新規導入者に対する個別巡回

汁液診断によるシクラメンの品質向上支援

横浜川崎地区事務所

株にボリュームがあり、花数の多い高品質なシクラメンを生産するには、適切な肥培管理が必要ですが、多くの栽培経験を要します。そこで、経験の少ない若手生産者が肥培管理を習得するために有効な汁液診断を導入し、栽培技術の向上を支援しました。

汁液診断は、葉柄中の硝酸態窒素の濃度を測定し、植物の栄養状態から施肥の時期や量を決定する方法です（図7）。

若手生産者は月2回当所で実施する汁液分析に基づき施肥管理を行います。その後、巡回検討会（図8）を通じて、ベテラン生産者の分析結果と生育状況を比較することにより、施肥管理の改善を図ります。また個別巡回を併せて行い、状況に応じたアドバイスを行ってきました。

このような取り組みの結果、若手生産者は成育状況の把握や施肥方法の判断能力が向上し、立毛共進会で上位の成績を収めることができました。



図7 汁液診断の方法



図8 巡回検討会の様子

全日本野菜品種審査会「コマツナ（秋まき冬どり）」が開催されました

生産技術部

令和元年12月6日に、当センターで日本種苗協会主催によるコマツナ（秋まき冬どり）品種審査会が開催されました（図9）。

品種審査会は、全国の種苗会社が育成した品種、もしくは品種になる前の系統を全国各地にある公立の試験研究機関が栽培し、栽培面や収穫物の特性を競います。

今回は14社の種苗会社から32品種・系統が出品されました。

令和元年10月21日に種子をまき、防風及び病害虫防除を目的としてトンネル栽培（0.6mm目合いネット）を行いました。10月の台風等がありましたが、種子を播いてから12月6日の審査会当日まで、どの品種・系統も順調に成育しました。

審査の結果、入賞品種・系統（表1）はいずれも成育の揃いが良く、収穫作業に適した葉姿を持ち、栽培のしやすさと高い商品性を兼ね備えていました。



図9 審査会の様子

表1 審査会審査結果

順位	品種・系統名	種苗会社
1等特別賞	サカタ交配 C9-055	(株)サカタのタネ
2等	サカタ交配 C8-053	(株)サカタのタネ
2等	サカタ交配 C9-054	(株)サカタのタネ
2等	大島交配 1744	東洋農事(株)
3等	大島交配 1726	東洋農事(株)
3等	サカタ交配 C8-051	(株)サカタのタネ
3等	フタバ交配 NS-915	野原種苗(株)
3等	ダイヤ交配 R8-800	トキタ種苗(株)
3等	フタバ交配 NS-917	野原種苗(株)



図10 1等特別賞
「サカタ交配C9-055」

花卉品種審査会「パンジー・ビオラ」が開催されました

生産技術部

令和元年11月5日に当センターガラス温室を会場として、第65回全日本花卉品種審査会「パンジー・ビオラ（秋出しポット栽培）」が開催されました（図11）。

この審査会は、日本種苗協会の委託を受けて、当センターが栽培を担当したもので、今回は国内種苗会社4社から、ビオラ15品種が出品されました。8月15日に288穴セルトレイに種子を播き、9月9、10日に3.5号ポットに移植して、施肥、防除等を行いながらガラス温室内で栽培しました。いずれの品種も順調に成育して、早い品種では9月下旬から開花が始まりました。審査は、(国研)農研機構、各県の花き研究者、各種苗会社の代表者等が審査員となって行われました。入賞した品種は、成育が旺盛で、草姿、花つき、花色等の形質が優れたものでした（表2）。特に上位のものは、比較的オーソドックスな色合いで、花つきや株全体のバランスがたいへん良い点が評価されました。



図11 審査会の様子

表2 審査会審査結果

順位	品種・系統名	種苗会社
1等特別賞	ピエナ ディープマリーナ	(株)サカタのタネ
2等	クイックタイム ホワイトブロッツ	(株)ミヨシグループ
2等	ピエナ ゴールデンブロッツ	(株)サカタのタネ
3等	EV-905	(株)タキイ種苗
3等	クイックタイム イエローバ イオレッドジャンプアップ	(株)ミヨシグループ
3等	クイックタイム ミッキー	(株)ミヨシグループ



図12 1等特 ピエナディープマリーナ

神奈川県内農耕地土壌の養分状態の現状とこれまでの推移

生産環境部

神奈川県内では、4つの分析機関（※）により、年間8,000～9,000点の土壌分析が実施されています。土壌分析データは、神奈川県の開発した土壌診断プログラム（図13）で土壌診断を実施し、県内農耕地の適正な施肥を行うために活用されています。

これらの土壌診断データについては、2007年に過去30年間の土壌診断データの収集、解析を行い、各作目ごとに各診断項目（pH、EC、石灰、苦土、カリ（交換性）、有効態リン酸、硝酸態窒素）の推移を取りまとめました。このため、今回は、その後から最近までの約10年間（2007～2017）の土壌診断データを各分析機関（※）から収集し、県内農耕地土壌の養分状態の現状と過去からの推移を検討しました。

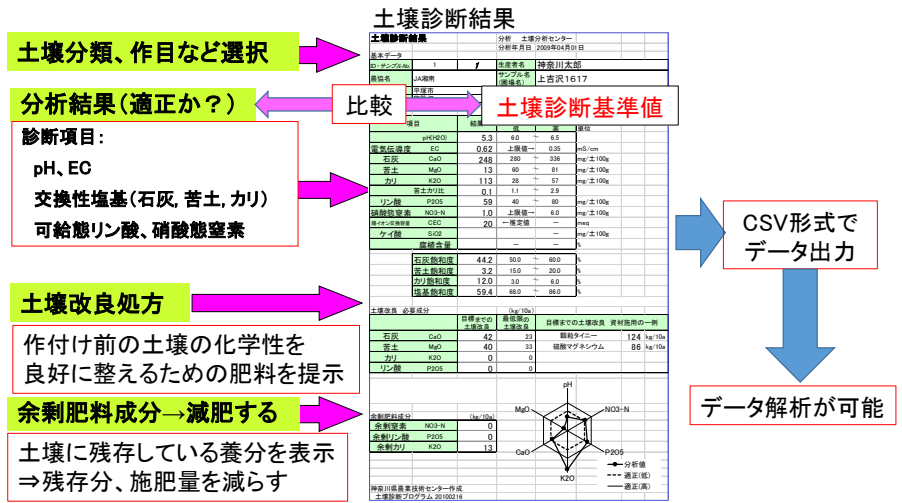


図13 神奈川県土壌診断プログラムの概要

神奈川県の土壌診断の基準値と比較すると、施設土壌では、キュウリなど、一部作目のカリ含量などで低下傾向が認められましたが、石灰、苦土含量が増加する（図14）など、施設土壌のリン酸や石灰、苦土を中心に依然として養分過剰の状態が継続していることが明らかになりました。このため、今後も土壌診断に基づくリン酸等の減肥など、施肥改善の徹底が求められます。

土壌分析データについては、今後も定期的に収集・解析を行い、県内農耕地土壌の養分動態の把握、施肥指導への活用を行う予定です。

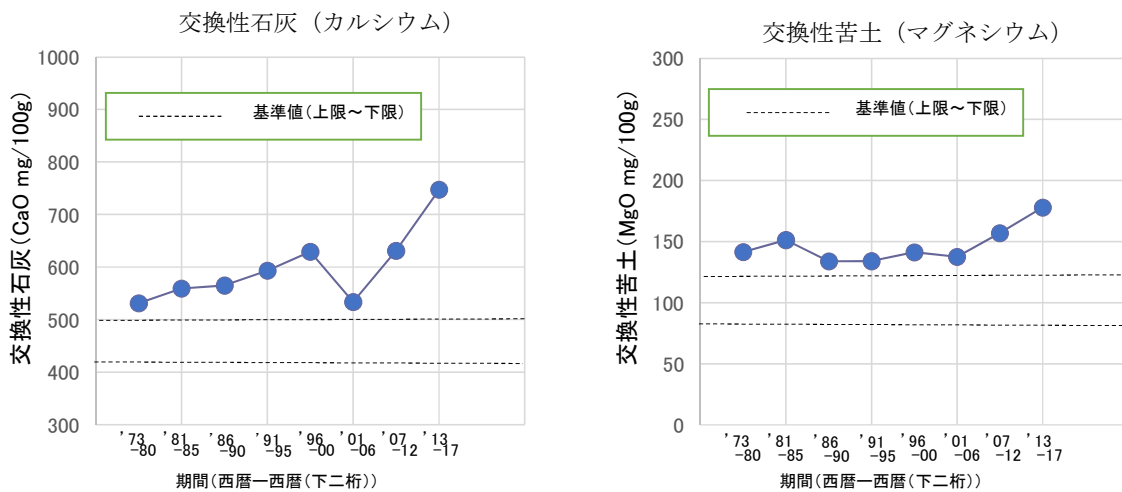


図14 施設土壌での交換性石灰、苦土の推移

※ 神奈川県内では、横浜市農業振興課（環境活動支援センター）、川崎市農業技術支援センター、三浦市農協、全農かながわ（全農全国土壌分析センター）で土壌分析が実施されています。これらの機関よりデータの提供をいただきました。データの収集に協力いただきました各機関の皆様へ感謝いたします。

